

令和2年度 第2回 学校運営協議会

日 時：令和2年10月5日（月）18：00～19：20

場 所：高知県立清水高等学校 会議室

参加者：（委 員）弘田浩三（学校関係者）、岡崎哲也（学校関係者）、岡林賢純（保護者）、
程岡庸（地域住民）、新谷英生（地域住民）、速川志保（地域住民）、
福重百合架（地域住民）、田中慎太郎（地域住民）、久保卓也（地域住民）
宮地秀伸（清水高等学校長）
（学 校）田中修一（全教頭）、泥谷耕二（定教頭）、植田文（事務長）、
近藤卓（主幹教諭）、沖田耕二（教務主任）、畠中晶代（進路指導主事）、

記 録：

〔開会〕 会長あいさつ

- 校長から（これまでの取組についての振り返りと本日の協議題について）
 - 前回の協議会において、学校魅力化について地域からの声を聞くべきではないかという意見を踏まえ、9月に、高校生、中学生、中学生保護者、市内小学生保護者に対してアンケート調査を実施した。
 - アンケート結果を受け、本日は、生徒の全国募集について協議をお願いしたい。
- 学校から（アンケート結果について説明→割愛）

〔協議〕（抜粋）

- アンケート結果については、概ね想定どおりであった。
- 実業系の学校に行きたい生徒は止められないが、清水高校の良さは基本的には理解されているのではないかと思う。
- 地元の受け皿として、清水高校は必要であるという思いを強くした。
- （志願しない理由として）いろいろな理由が挙げられているが、その中にはわかりにくいものもあり、さらに詳細な分析が必要なものもある。
- 「土佐清水市で暮らしたくない」という生徒が一定数いることは残念に思う。一度出てみたいという気持ちはわからないでもない。
- （「土佐清水市で暮らしたいか」ということについて）「わからない」という回答が最も多いということは、今後の取り組み次第では「暮らしたい」という気持ちに変わる可能性もあり、教育現場としてがんばるべき部分ではないかと思う。
- 高校生が「生徒数の確保」や「全国募集」を求めていることがうかがわれる。やはり、現状での学校生活に、さまざまな限界を感じているのではないか。生徒たちに具体的に

声を聞いてもいいのではないかと思う。

- 「学校行事の充実」を求める声が多いが、文化祭、体育祭を毎年開催したらどうか。
- 本校入学生の「全国募集」について意見をお願いしたい。清水中学校からの入学生について、これまでと同じ水準で想定すると、近い将来20名程度に落ち込むことが予想される。今後は、県の設置基準を満たさないことがあり得る状況だ。何か手を打たないと学校の存続に関わることになる。市外から生徒を受け入れるには「寮」が必要であるが、これは県が設置することにはなっておらず、市からの支援が不可欠である。また、生徒の生活面等を見守る制度も必要であり、地域住民の厚い支援がないとこれらの計画は進められない。この学校運営協議会として、清水高校に「寮」を設置し、生徒の全国募集を展開することの是非を問いたい。
- 清水高校は、土佐清水市のためにはなくてはならない高校である。学校の存続に関わるならば、全国募集を展開するなど、早急に手を打つべきである。そのために、市長に支援を要請するべきである。
- 市に支援を要請するならば、より具体的なアイデアを示すべきである。
- 学校の魅力化を推進するためには、フェアヘイブンとの交流を拡大し、留学期間を延長するなど、さらに特色化を図ればどうか。
- 高知県内では、数年前から全国募集を行っている高校もいくつかあり、その結果、地元中学校からの進学率が上昇するなどの成果をあげている学校ある。また、地元自治体が高校生の海外留学費用を負担している例もある。
- 学校魅力化のための具体的な取組については、今後、継続的に協議を深めていきたい。まずは全国募集を実施するために生徒の受け入れ施設となる「寮」の設置について、近日中に土佐清水市長に支援要請を行うことを確認して、本日の協議会を閉会したいと思う。

[閉会]